社会に開かれた教育課程を推進する「えさし探究」の実践
～地域と連携した探究的な学びの充実～

北海道枝幸高等学校　学級数６　（校長　辻　　芳恵）

１　本校の現状

本校は、枝幸町に唯一の道立学校であり、道内でもトップクラスのＩＣＴ環境を活用した効果的な指導を展開している。また、枝幸町からの支援により、多くの就学補助はもとより、平日の放課後や長期休業期間中に、町が運営する校内に設置された塾において、個別の進学指導や学習指導が行われている。小規模校の利点を活かしながら、生徒一人一人を深く理解し、地域の教育資源を活用しながら、自己実現のための個別最適な学びを提供している。

２　実践の内容

(1)　総合的な探究の時間「えさし探究」と「枝幸町ふるさと教育推進プロジェクト」の連動

本校では、地域とつながり、自ら課題を解決する力を養うことを目標とし、「総合的な探究の時間」では「えさし探究」を実施している。また、枝幸町が推進する「枝幸町ふるさと教育推進プロジェクト」では、将来地域を支える人材の育成に力を入れており、地域と学校が連携し、計画的な指導が展開されている。学校で学んだことと、地域に関する知識を関連させ、自ら地域課題の発見及び解決に向かう生徒の姿は、「社会に開かれた教育課程」を体現したものとなっており、地域住民等に高く評価されている。

ア　第１学年における取組

- まちの歴史や産業について考察を深めることを目的に、地域住民による講義や牧場、水産加工場等の視察、植樹体験等を実施
- 講義や視察を通して学んだことについてグループ討議・発表
- まちの魅力を町外の方に発信する活動

植樹体験

えさし探究発表会

イ　第２学年における取組

- 第１学年時の学習内容で、特に興味・関心が高かったテーマ（歴史・観光・酪農業・水産業・林業・医療福祉）を１つ選択し、グループで調査・探究
- グループごとに「まちを活性化させるためのプラン」を立案
- 枝幸町のプロジェクトメンバーによる、生徒の調査・探究活動に対する助言・支援
- ＩＣＴ機器を活用した全校発表会の実施と、枝幸町のプロジェクトメンバーからの講評

第１学年における「えさし探究」の内容等

※実施内容は、学校と枝幸町で検討を行い、毎年更新

(2)　社会に開かれた教育課程の推進に向けて

今後も、枝幸町との連携を強固で持続可能なものとするため組織体制を整備し、スクール・ミッションの達成に向け、「えさし探究」を軸に主体的・対話的で深い学びの充実により、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を図り、社会に開かれた教育課程の更なる充実を目指したいと考えている。

３　成果と課題（○成果　●課題）

○　学校や地域で「育成したい資質・能力」に関して共通意識をもつことで、生徒・教員・家庭・保護者がそれぞれの役割を認識しながら教育活動を行うことができた。

●　本活動を通して、第２学年までに生徒が身に付けた資質・能力を第３学年で更に伸長させ、進路希望実現のために必要となる学力等を高めるための学習へ移行していく必要がある。